

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	カクコカクシツン クマドジ ヨクホカクケン 学校法人 熊本城北学園									
フリガナ大学の名称	キョウシユウカクノ フクシダ イカク イカクケン 九州看護福祉大学大学院 (Kyushu University of Nursing and Social Welfare Graduate School)									
大学本部の位置	熊本県玉名市富尾888番地									
大学の目的	九州看護福祉大学大学院は、本学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、もって文化の進展に寄与することを目的とするとともに、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または、高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。									
新設学部等の目的	健康支援科学専攻は、ヘルスプロモーションの理念に立ち、食すること（口腔機能支援科学分野）、身体を動かすこと（身体機能支援科学分野）を基盤とし、関連する学際分野と融合した健康支援科学に関する学術研究活動を科学的根拠に基づき実践することで、健康支援に関わる高度の知識と技術を有する専門職及び多職種の専門職連携の構築をリードできる人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地		
	看護福祉学研究科 [Graduate Course of Nursing and Social Welfare] 健康支援科学専攻 [Health Sciences Major] 計	2	8	—	16	修士(健康科学)	平成26年4月 第1年次	熊本県玉名市富尾 888番地		
【基礎となる学部】 看護福祉学部 リハビリテーション学科 鍼灸スポーツ学科 口腔保健学科										
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		看護福祉学研究科看護学専攻 [定員減] (△4) 精神保健学専攻 [定員減] (△4)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護福祉学研究科 健康支援科学専攻	講義 41 科目	演習 10 科目	実験・実習 — 科目	計 51 科目	30 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護福祉学研究科 健康支援科学専攻(修士課程)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
		計	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
	既設分	看護福祉学研究科 看護学専攻(修士課程)	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	20 (20)	
		看護福祉学研究科 精神保健学専攻(修士課程)	5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
	計	14 (14)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	22 (22)		
合計	22 (22)	12 (12)	6 (6)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	27 (27)			
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		33 (33)		7 (7)		40 (40)			
	技術職員		0 (0)		2 (2)		2 (2)			
	図書館専門職員		3 (3)		2 (2)		5 (5)			
	その他の職員		2 (2)		2 (2)		4 (4)			
計		38 (38)		13 (13)		51 (51)				
大学全体										

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積は 69,197.00㎡ 借用期間：平成8年7月か ら30年間 貸与者：玉名市			
	校 舎 敷 地	20,649.36 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	20,649.36 ㎡				
	運 動 場 用 地	21,832.58 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,832.58 ㎡				
	小 計	42,481.94 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	42,481.94 ㎡				
	そ の 他	88,193.06 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	88,193.06 ㎡				
合 計	130,675.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	130,675.00 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		21,695.33 ㎡ (21,695.33 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	21,695.33 ㎡ (21,695.33 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	30 室	5 室 (セミナー16室)	26 室	4 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		看護福祉学研究科健康支援科学専攻		14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	看護福祉学研究科	52,791 [9,936] (52,791 [9,936])	403 [117] (403 [117])	17 [17] (17 [17])	1,185 (1,185)	1,643 (1,643)	353 (353)		
	計	52,791 [9,936] (52,791 [9,936])	403 [117] (403 [117])	17 [17] (17 [17])	1,185 (1,185)	1,643 (1,643)	353 (353)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		1086.00 ㎡	155 席	92,611 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1367.02 ㎡	テニスコート1面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教授50万、准教授・講師40万を教員数按分による 大学全体 大学全体 概算値
		経費1人当り研究費等	—	457千円	457千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等	—	2,497千円	2,497千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	—	9,801千円	9,801千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	—	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,000千円	800千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入等							
大 学 の 名 称		九州看護福祉大学							
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	看護福祉学部 看護学科	4 年	100 人	— 年次 人	400 人	学士 (看護学)	1.12 1.22	平成10年度	熊本県玉名市富尾 888番地
	社会福祉学科	4	110	—	440	学士 (社会福祉学)	1.07	平成10年度	
	リハビリテーション学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.24	平成18年度	
	鍼灸スポーツ学科	4	40	—	160	学士 (鍼灸スポーツ学)	1.24	平成22年度	
	口腔保健学科	4	50	—	200	学士 (口腔保健学)	0.83	平成22年度	
	看護福祉学研究科 看護学専攻	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.41 0.50	平成15年度	
	精神保健学専攻	2	12	—	24	修士 (精神保健学)	0.33	平成17年度	
附属施設の概要		<p>名 称：附属鍼灸臨床センター</p> <p>目 的：九州看護福祉大学の附属施設として鍼灸スポーツ学科に所属する学生の学習及び教育職員の教育、研究の用に供するとともに、患者に対する鍼灸治療等を行うことにより、地域住民における健康・福祉の増進、鍼灸医学の普及、発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地：熊本県玉名市富尾888番地</p> <p>設置年月：平成24年4月</p> <p>規 模 等：土地：137.09㎡，建物137.09㎡</p>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(看護福祉学研究科健康支援科学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	高齢者ケアサービス論	1・2前		2		○			1					兼1
	ヘルスケアシステム論	1・2後		2		○								兼1
	医療統計学	1・2前		2		○								兼1
	応用倫理学	1・2後		2		○								兼1
	健康医科学	1前		2		○								兼1
	心身医学論	1・2後		2		○								兼1
	健康支援科学通論	1前	2			○			6		1			兼4 オムニバス
	ヘルスプロモーション論	1・2後	2			○								兼1
小計(8科目)		4	12	0	—			6	0	1	0	0	兼8	
研究基盤科目	精神保健アセスメント論	1・2前		2		○			1					兼1
	口腔疾患病態論	1・2後		2		○			1	1				
	口腔疾患予防基礎論	1・2前		2		○								
	表面筋電図計測・解析論	1・2通		4		○			1					
	生体運動・動作解析学	1・2通		4		○			1					
	生体酸素搬送システム評価学	1・2通		4		○			1					
	呼吸調節機能評価学	1・2通		4		○				1				
	計量解析研究論	1・2後		2		○								兼1
	脳形態機能解析学	1・2前		2		○			1					
	東洋医学基礎理論	1前		2		○			1		1			兼3 オムニバス
	基礎病態生理学	1後		2		○			1					
小計(11科目)		0	30	0	—			6	2	1	0	0	兼5	
臨床応用科目	家族発達援助論	1・2前		2		○								兼1
	発達障害臨床論	1・2後		2		○								兼1
	応用健康教育論	1・2前		2		○								兼1
	教育精神保健論	1・2前		2		○								兼1
	高齢者精神保健論	1・2前		2		○								兼1
	障害児発達援助論	1・2後		2		○								兼1
	口腔機能リハビリテーション論	1・2後		2		○			1					
	口腔機能発達支援論	1・2前		2		○					1			
	介護予防フロンティア戦略論	1・2前		2		○			1					
	疾病予防支援論	1・2前		2		○			1					
	内部障害フロンティア戦略論	1・2前		2		○				1				
	生活機能判断学	1・2前		2		○					1			
	身体機能制御論	1前		2		○				1				
	和漢療法応用学	1後		2		○					1			兼2 オムニバス
小計(14科目)		0	28	0	—			3	2	3	0	0	兼8	
研究応用科目	応用口腔機能支援科学特論	1通		4		○			1					
	応用口腔機能支援科学演習	1通		4			○		1					
	社会口腔機能支援科学特論	1通		4		○			1					
	社会口腔機能支援科学演習	1通		4			○		1					
	発達口腔機能支援科学特論	1通		4		○			1					
	発達口腔機能支援科学演習	1通		4			○		1					
	身体運動機能支援科学特論	1通		4		○			1					
	身体運動機能支援科学演習	1通		4			○		1					
	呼吸・循環機能支援科学特論	1通		4		○				1				
	呼吸・循環機能支援科学演習	1通		4			○			1				
	身体機能予防支援科学特論	1通		4		○				1				
	身体機能予防支援科学演習	1通		4			○			1				
	身体機能応用支援科学特論	1通		4		○			1		1			オムニバス
	身体機能応用支援科学演習	1通		4			○		1		1			オムニバス
	身体機能病態生理学特論	1通		4		○			1					
	身体機能病態生理学演習	1通		4			○		1					
	鍼灸臨床特別演習	1通		4			○		1	1	1			オムニバス
小計(17科目)		0	68	0	—			6	2	1	0	0		
総合	健康支援科学研究	2通	8	0	0	○		6	2					
合計(51科目)			—	12	138	0	—	8	3	3			兼18	
学位又は称号			修士(健康科学)			学位又は学科の分野					保健衛生学関係			
修了要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件 共通科目から3科目6単位以上、研究基盤科目から1科目2単位以上、臨床応用科目から1科目2単位以上、及び各分野に関する研究応用科目(特論、演習)8単位と総合科目の健康支援科学研究8単位を含め30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること。 注:鍼灸臨床特別演習を履修出来るのは、はり師及びきゅう師の免許を有する者であること。						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要 (看護学専攻)

(看護福祉学研究科看護学専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	高齢者ケアサービス論	1・2		2		○			1						
	医療統計学	1・2		2		○									兼1
	ヘルスケアシステム論	1・2		2		○									兼1
	小計 (3科目)			6		—			1						兼2
看護学専攻共通科目	看護教育論	1・2		2		○									兼2
	看護管理論	1・2		2		○									兼1
	看護倫理	1・2		2		○									兼2
	コンサルテーション論	1・2		2		○									兼2
	看護理論	1・2		2		○									兼1
	看護政策論	1・2		2		○									兼1
基礎看護学分野	基礎看護学特論	1・2		4		○			1						
	基礎看護学演習	1・2		4			○		1						
	基礎看護学研究	1~2		8			○		1						
	看護病態機能学特論	1・2		4		○			2						オムニバス
	看護病態機能学演習	1・2		4			○		1						
	看護病態機能学研究	1~2		8			○		1						
専門科目 臨床看護学分野	成人看護学特論	1・2		4		○									現在閉講中
	成人看護学演習	1・2		4			○								現在閉講中
	成人看護学研究	1~2		8			○								現在閉講中
	がん病態生理学	1・2		2		○			2						兼3 オムニバス
	がん看護理論	1・2		2		○									兼1
	がん看護学援助論Ⅰ	1・2		2		○									兼2 オムニバス
	がん看護学援助論Ⅱ	1・2		2		○									兼2 オムニバス
	がん疼痛看護・緩和ケア学	1・2		2		○									兼3 オムニバス
	がんリハビリテーション看護学	1・2		2		○									兼2 オムニバス
	がんターミナル看護学	1・2		2		○									兼1
	がん看護学課題研究	1・2		2			○								兼1
	がん看護学実習	1・2		6				○		1					
	がん看護学演習	1・2		4			○			1					
	がん看護学研究	1~2		8			○			1					
	小児看護学特論	1・2		4		○				1	1				オムニバス
小児看護学演習	1・2		4			○			1	1				オムニバス	
小児看護学研究	1~2		8			○			1						
老年看護学分野	老年看護学特論	1・2		4		○			2	1					オムニバス
	老年看護学演習	1・2		4			○		2	1					オムニバス
	老年看護学研究	1~2		8			○		2						
地域看護学分野	地域看護学特論	1・2		4		○			2	2					兼1 オムニバス
	地域看護学演習	1・2		4			○		1						
	地域看護学研究	1~2		8			○		1						
	国際保健学特論	1・2		4		○			1						兼1 オムニバス
	国際保健学演習	1・2		4			○		1						兼1 オムニバス
	国際保健学研究	1~2		8			○		1						
	小計 (38科目)			158		—			10	4					兼18
合計 (41科目)		—		164		—			10	4					兼20
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件 ①30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格すること。 ②看護学専攻共通科目の中から8単位以上を各領域とも履修すること。 ③各分野に領域を設け、各領域に特論、演習及び研究に関する科目をおき、計16単位は必修とする。 なお、がん看護学領域の修士論文コースにおいては、「がん看護学特論」に代えて「がん病態生理学」及び「がん看護理論」とする。また、がん看護学領域の上級実践コースにおいては、「がん看護学研究」に代えて「がん看護学課題研究」及び「がん看護学実習」とする。 ④がん看護学領域の修士論文コースは、「がん看護学援助論Ⅰ」、「がん看護学援助論Ⅱ」、「がん疼痛看護・看護ケア学」、「がんリハビリテーション看護学」、「がんターミナル看護学」から各研究指導教員の指導により、6単位以上履修すること。 ⑤がん看護学領域以外の領域にあっては、その他6単位分の履修科目については、各研究指導教員の指導により決定する。								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教育課程等の概要 (精神保健学専攻)

(看護福祉学研究科精神保健学専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	高齢者ケアサービス論	1・2		2		○								兼1
	医療統計学	1・2		2		○								兼1
	ヘルスケアシステム論	1・2		2		○			1					
	小計(3科目)			6		—			1					兼2
精神保健学専攻共通科目	応用倫理学	1・2		2		○			1					
	現代社会病理論	1・2		2		○			1					
	ヘルスプロモーション論	1・2		2		○			1	1				オムニバス 現在閉講中
	ソーシャルネットワーク論	1・2		2		○			1	1				
	児童精神保健論	1・2		2		○								
	家族精神保健論	1・2		2		○			1					
	教育精神保健論	1・2		2		○				1				
	高齢者精神保健論	1・2		2		○				1				
	精神保健介護論	1・2		2		○								兼1
	精神保健管理論	1・2		2		○			1					
	精神保健アセスメント論	1・2		2		○				1				
	コンサルテーションリエゾン精神医学	1・2		2		○								現在閉講中
	心身医学論	1・2		2		○								現在閉講中
	精神保健看護論	1・2		2		○								兼1
	障害児発達援助論	1・2		2		○				1				
	行動障害援助論	1・2		2		○				1				
	家族発達援助論	1・2		2		○				1				
生活環境支援論	1・2		2		○			1						
精神保健住環境論	1・2		2		○			1						
発達精神保健学分野	臨床・予防領域 発達精神保健学特論Ⅰ	1・2		4		○			1	1	2			
	発達精神保健学演習Ⅰ	1・2		4			○		1	1	2			
	発達精神保健学研究Ⅰ	1～2		8			○		1	1				
	行動・障害領域 発達精神保健学特論Ⅱ	1・2		4		○				1				
	発達精神保健学演習Ⅱ	1・2		4			○			1				
	発達精神保健学研究Ⅱ	1～2		8			○							現在閉講中
社会精神保健学分野	地域・健康増進領域 社会精神保健学特論Ⅰ	1・2		4		○			2		1			
	社会精神保健学演習Ⅰ	1・2		4			○		2		1			
	社会精神保健学研究Ⅰ	1～2		8			○		2					
	社会精神保健学特論Ⅱ	1・2		4		○			2					
	社会精神保健学演習Ⅱ	1・2		4			○		2					
	社会精神保健学研究Ⅱ	1～2		8			○		2					
小計(31科目)			102		—			6	4	3			兼2	
合計(34科目)		—		108		—			6	4	3			兼4
学位又は称号		修士(精神保健学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件 ①30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格すること。 ②各分野に領域を設け、各領域に特論、演習及び研究に関する科目をおき、計16単位は必修とする。 ③その他14単位分の履修科目については、共通科目及び精神保健学専攻共通科目の中から各研究指導教員の指導により決定する。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要(リハビリテーション学科)

(看護福祉学部 リハビリテーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	人間と生活の理解	文学	1前	2		○									兼2	オムニバス
		心理学Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		心理学Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		発達心理学	1前	2		○									兼1	
		哲学	1後	2		○									兼1	
		法学Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		法学Ⅱ(日本国憲法)	1後	2		○									兼1	
		社会学Ⅰ	1前	2		○									兼2	
		経済学	1前	2		○									兼1	
		ボランティア論	1前	2		○									兼3	
	教育学	1前	2		○									兼1		
	カウンセリング論	1後	2		○									兼1		
	体育	1後	2		○									兼1		
	ことばと文化	比較文化論	1前	2		○									兼3	オムニバス
		英語Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		英語Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		英会話Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		中国語会話Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		中国語会話Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		韓国語会話Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		韓国語会話Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		スペイン語会話	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前	2		○									兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1後	2		○									兼1		
	障害者言語	1後	2		○									兼1		
	科学的思考の基盤	基礎生物学	1前	2		○									兼1	オムニバス
		環境生物学	1後	2		○									兼1	
		情報リテラシー	1通	2			○								兼1	
		生命倫理	1前	2		○									兼4	
		人間工学	1後	2		○									兼1	
環境科学		2前	2		○									兼1		
物理学		1前	2		○									兼1		
小計(32科目)			6	58			—							兼27		
専門科目	臨床心理学	1後	2		○									兼1	オムニバス	
	看護学概論	1前	2		○									兼4		
	社会福祉原論Ⅰ	1前	2		○									兼1		
	地域保健論	1後	2		○									兼1		
	生活支援論	1後	2		○				1					兼10		
	行動療法論	1前	2		○									兼1		
	解剖生理学Ⅰ	1前	2		○					1				兼1		
	解剖生理学Ⅱ	1前	2		○									兼1		
	生活栄養学	1後	2		○									兼1		
	感染症学	2前	2		○									兼3		
	薬理学	2後	2		○									兼1		
	医用工学	2後	2		○									兼6		
小計(12科目)			6	18			—		2					兼28		
専門基礎科目	機能解剖学	1前	2		○						1				オムニバス	
	機能解剖学演習	1後	1			○					1					
	解剖生理学演習	2前	1			○			1					兼1		
	解剖生理学特講	4後	1	1		○			1		2			兼1		
	解剖生理学Ⅲ	1後	2		○									兼1		
	運動生理学	1後	2		○									兼1		
	人間発達学	1後	2		○						1			兼1		
	病態生理学Ⅰ	1後	2		○									兼3		
	病態生理学Ⅱ	2前	2		○									兼4		
	病態生理学Ⅲ	2後	2		○									兼4		
	精神医学	1後	2		○				1					兼1		
	リハビリテーション概論	1前	2		○				1							
	リハビリテーション医学Ⅰ	2前	2		○				1		2			兼1		
リハビリテーション医学Ⅱ	2前	2		○				1		1			兼1			
リハビリテーション医学Ⅲ	2前	2		○				1	1	1			兼1			

教育課程等の概要（リハビリテーション学科）

（看護福祉学部 リハビリテーション学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	理学療法概論	1後	2			○			1								
	運動学	1前	2			○			1								
	運動学演習	1後	1				○		1								
	バイオメカニクス	2前	2			○			1								
	バイオメカニクス演習	2後	1				○		1								
	統計学	1後	2			○									兼1		
	理学療法評価学	1後	2			○			1	2	3	1				オムニバス	
	理学療法評価学演習Ⅰ	2前	2				○		2	2	3	1				オムニバス	
	理学療法評価学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1	2	2				オムニバス	
	運動療法学	2前	2			○					1						
	運動療法学演習	2後	1				○			1	2					オムニバス	
	物理療法学	2前	2			○				1							
	物理療法学演習	2後	1				○			1	1				兼1	オムニバス	
	義肢・装具学	2後	2			○									兼1		
	義肢・装具学演習	2後	1				○								兼1		
	日常生活行動学	2前	2			○				1							
	日常生活行動学演習	2後	1				○			1	2	1				オムニバス	
	生活環境学	2前	2			○					1						
	地域理学療法学	2前	2			○									兼1		
	地域理学療法学実習	2通	1					○		1	1					オムニバス	
	基礎理学療法学特講	4後		1						3	1					オムニバス	
	研究方法論	3前	2			○				1							
	臨床理学療法学	運動器理学療法学	2後	2			○			1		2					オムニバス
		運動器理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○		1		2					オムニバス
		運動器理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○		1		2					オムニバス
		運動器理学療法学特講	4後		1			○		1		2					オムニバス
		神経理学療法学	2後	2			○					1					
		神経理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○			2						オムニバス
		神経理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○			2	1					オムニバス
		神経理学療法学特講	4後		1			○			2	1	1				オムニバス
		内部障害理学療法学	2後	2			○			1	1	1					オムニバス
		内部障害理学療法学演習Ⅰ	2後	1				○		1	1	1					オムニバス
		内部障害理学療法学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1	1					オムニバス
		内部障害理学療法学特講	4後		1			○		1	1	1					オムニバス
		スポーツ理学療法学	3前	2			○				1					兼1	オムニバス
		スポーツ理学療法学演習	3前	1				○			1					兼1	オムニバス
臨床実習	老人理学療法学	3前	2			○					1	1				オムニバス	
	小児理学療法学	2後	2			○						1	1				
	小児理学療法学演習	3前	1				○					1	1				
卒業研究	臨床実習Ⅰ	3後	3					○	4	3	5	2					
	臨床実習Ⅱ	3後	8					○	4	3	5	2					
	臨床実習Ⅲ	4前	8					○	4	3	5	2					
卒業研究	卒業研究論文	4通	4						4	3	5						
小計（58科目）			103	5			—		4	3	5	2			兼15		
合計（102科目）			—	115	81		—		4	3	5	2			兼63		
学位又は称号			学士（理学療法学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
卒業要件 「共通科目」の中から、必修6単位、選択科目の中から8単位以上、「共通専門科目」の中から、必修6単位、選択科目の中から4単位以上（ただし、「共通専門科目」の臨床心理学、看護学概論、社会福祉原論Ⅰ、地域保健論、生活支援論、行動療法論、生活栄養学の中から2単位以上、薬理学、医用工学の中から2単位以上を履修のこと）、 「専門科目」必修103単位。 「合計取得単位」必修115単位、選択科目の中から12単位以上、計127単位。						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

教育課程等の概要 (鍼灸スポーツ学科)

(看護福祉学部 鍼灸スポーツ学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	文学	1前		2		○									兼2	オムニバス
	心理学 I	1前		2		○									兼1	
	心理学 II	1後		2		○									兼1	
	スポーツ心理学	1後		2		○									兼1	
	法学 I	1前		2		○				1						
	法学 II (日本国憲法)	1後		2		○				1						
	社会学 I	1前		2		○									兼1	
	社会学 II	1後		2		○									兼1	
	スポーツ社会学	1後		2		○									兼1	
	教育学	1前		2		○									兼1	
	発達心理学	1前		2		○									兼1	
	哲学	1後		2		○									兼1	
	経済学	1前		2		○									兼1	
	コミュニケーション論	2前	2			○									兼1	
	カウンセリング論	1後		2		○									兼1	
	比較文化論	1前		2		○									兼1	
	体育原理	1前		2		○									兼1	
	体育	1後		2		○				1					兼1	
	ことばと文化	英語 I	1前	2			○									兼1
		英語 II (医療英語)	1後	2			○									兼1
		英会話 I	1前		2		○									兼1
		英会話 II	1後		2		○									兼1
		中国語会話	1前		2		○									兼1
		韓国語会話	1後		2		○									兼1
		ドイツ語	1後		2		○									兼1
		障害者言語 I (点字)	1前		2		○									兼1
		障害者言語 II (手話)	1後		2		○									兼1
		科学的思考の基礎	基礎生物学	1前		2		○								
	公衆衛生学		2前	2			○									兼1
	環境衛生学		2後		2		○									兼1
生命倫理	1前			2		○									兼1	
人間工学	1後			2		○						1			兼1	
トレーニング科学	1後			2		○									兼1	
情報リテラシー I	1前			2			○								兼1	
情報リテラシー II	1後		2			○								兼1		
小計 (35科目)			14	56			—		2			1		兼26		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学 I	1前		2		○			1						兼6 オムニバス オムニバス
		解剖学 II	1後		2		○			1						
		解剖学 III (講義・演習)	2前		2			○			1					
		生理学 I	1前		2		○									
		生理学 II	1後		2		○									
		生理学 III (講義・演習)	2前		2			○			1		1			
		医用工学	1後		2		○									
		スポーツ医学概論	2前		2		○					1				
		運動学	1後		2		○					1				
		バイオメカニクス	3前		2		○									
	運動生理学	2後		2		○										
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	医学概論	1後		2		○				1					兼1 オムニバス 兼10 オムニバス
		病理学	2前		2		○				1					
		臨床医学総論 I	1後		2		○				1					
		臨床医学総論 II	2前		2		○				1					
		臨床医学各論 I (呼吸器・循環器系)	2前		2		○				1					
		臨床医学各論 II (消化器系・泌尿器系)	2後		2		○				1					
		臨床医学各論 III (整形外科)	2後		2		○									
		臨床医学各論 IV (スポーツ障害)	3前		2		○									
		臨床医学各論 V (皮膚・免疫系)	2前		2		○				1					
臨床医学各論 VI (脳神経疾患・婦人科系疾患)		3後		2		○				1						
リハビリテーション概論	2前		2		○											
リハビリテーション医学	2前		2		○											
薬理学	2後		2		○											
はりきりゅうの理念 保健医療福祉と	医事法規	2後		2		○				1					兼1 兼1 兼1 兼1	
	保健福祉論	2後		2		○										
	社会保障論	3前		2		○										
	地域保健論	2後		2		○										
	学校保健	2前		2		○										
	精神保健 I	2前		2		○										
	健康相談論	2後		2		○										
救急処置法	2前		2		○				1	1	1					
小計 (32科目)			38	26			—		3	1	1	1		兼28		

教育課程等の概要（鍼灸スポーツ学科）

(看護福祉学部 鍼灸スポーツ学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計(142科目)			—	102	130	34	—			4	4	2	3	1	兼77
学位又は称号		学士(鍼灸スポーツ学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業要件 「人間の生活の理解」の分野の中から、必修2単位、選択4単位以上。「ことばと文化」の分野の中から、必修4単位と選択4単位以上。「科学的思考の基盤」の分野の中から、必修8単位。「人体の構造と機能」の分野の中から、必修12単位、選択4単位以上。「疾病の成り立ち、予防及び回復の促進」の分野の中から、必修24単位。「保健医療福祉とはりきゅうの理念」の分野の中から、必修2単位、選択4単位。「基礎はりきゅう学」の分野の中から、必修12単位。「臨床はりきゅう学」の分野の中から、必修12単位。「社会はりきゅう学」の分野の中から、必修2単位。「実習」の分野の中から、必修20単位。「統合領域」の分野の中から、必修4単位、選択8単位。「合計取得単位数」必修102単位、選択科目の中から、24単位以上、計126単位。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要 (口腔保健学科)

(看護福祉学部 口腔保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	文学	1前		2		○									兼2	オムニバス
	心理学 I	1前		2		○									兼1	
	心理学 II	1後		2		○									兼1	
	法学 I	1前		2		○									兼1	
	法学 II (日本国憲法)	1後		2		○									兼1	
	社会学 I	1前		2		○									兼2	
	社会学 II	1後		2		○									兼1	
	教育学	1前		2		○									兼1	
	発達心理学	1前		2		○									兼1	
	哲学	1後		2		○			1							
	経済学	1前		2		○										
	倫理学	2前		2		○			1							
	コミュニケーション論	2前	2			○									兼1	
	ボランティア論	1前		2		○									兼3	オムニバス
	比較文化論	1前		2		○			1						兼2	オムニバス
カウンセリング論	1後		2		○									兼1		
体育	1前		2		○									兼1		
基礎分野	英語 I	1前	2			○									兼1	
	英語 II (医療英語)	1後		2		○									兼1	
	英会話 I	1前	2			○									兼1	
	英会話 II	1後		2		○									兼1	
	中国語会話	1前		2		○									兼1	
	韓国語会話	1後		2		○									兼1	
	ドイツ語	1後		2		○									兼1	
	障害者言語 I (点字)	1前		2		○									兼1	
	障害者言語 II (手話)	1後		2		○									兼1	
	基礎生物学	1前		2		○			1						兼1	
公衆衛生学	2前	2			○											
環境衛生学	2後		2		○									兼1		
生命倫理	1前		2		○									兼4	オムニバス	
人間工学	1後		2		○									兼1		
情報リテラシー I	1前		2			○								兼1		
情報リテラシー II	1後		2			○	○							兼1		
小計 (33科目)			16	50				—	2						兼26	
専門基礎分野	解剖生理学 I	1前		2		○									兼2	オムニバス
	解剖生理学 II	1後		2		○									兼2	オムニバス
	解剖生理学 III	2前		2		○									兼2	オムニバス
	生化学	1前		2		○									兼2	オムニバス
	医用工学	1後		2		○									兼6	オムニバス
	生活栄養学	1後		2		○									兼1	
	バイオメカニクス	3前		2		○									兼1	
	運動生理学	1後		2		○									兼1	
	口腔解剖学	1後		2		○									兼2	オムニバス
	口腔組織発生物学	1後		1		○									兼1	
	口腔生理学	1後		1		○									兼1	
	口腔生化学	1後		1		○									兼1	
	病態生理学 I	1後		2		○									兼3	オムニバス
	病態生理学 II	2前		2		○									兼4	オムニバス
	病態生理学 III	2後		2		○									兼4	オムニバス
	口腔病理学	2前		1		○									兼1	
	感染症学	2前		2		○									兼3	オムニバス
	口腔微生物学	2前		1		○			1	1					兼3	オムニバス
	薬理学	2後		2		○									兼2	オムニバス
	リハビリテーション概論	2前		2		○									兼1	
リハビリテーション医学	2前		2		○									兼10	オムニバス	
専門基礎分野	医事法規	2後		2		○									兼1	
	医療福祉論 I	3前		2		○									兼1	
	保健社会論	2前		2		○									兼1	
	地域保健論	2後		2		○									兼1	
	精神保健 I	2前		2		○									兼1	
	健康相談論	2後		2		○									兼1	
	学校保健	2前		2		○									兼1	
	救急処置法	2前		2		○									兼1	オムニバス
	口腔保健衛生学	1後		2		○						1				
	口腔保健統計学	2前		1		○						1				
	地域歯科衛生学	2後		1		○						1	1			
	保健福祉行政論	2前		2		○						1	1			
	保健福祉論	2後		2		○									兼1	
	国際保健論	2前		2		○									兼1	
	疫学	2後		2		○									兼1	
保健統計学	2前		2		○									兼1		
小計 (37科目)			27	40				—	2	2					兼46	

教育課程等の概要（口腔保健学科）

(看護福祉学部 口腔保健学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	概論	歯科衛生学概論	1前	2			○				1	2			兼1	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学概論	1前	2			○			2	1					オムニバス
		歯科保存学	2前	2			○			1						
		歯周病治療学	2後	2			○			1						
		歯科補綴学	2前	2			○			1						
		顎口腔外科学	2前	2			○									兼1
		歯科麻酔学	2前	1			○									兼1
		発達矯正歯科学	2前	2			○			1						
		発達歯科学Ⅰ（小児）	2前	2			○				1	1				オムニバス
		発達歯科学Ⅱ（障害者）	2後	1			○									兼1
	発達歯科学Ⅲ（高齢者）	2後	1			○			1							
	歯科予防	口腔疾患予防学	2前	2			○				1					
		口腔疾患予防学演習Ⅰ（基礎技術）	2後	2				○		2	1	2	3			オムニバス
		口腔疾患予防学演習Ⅱ（う蝕予防）	2後	2				○		1	2	2	3			オムニバス
		口腔疾患予防学演習Ⅲ（歯周病予防）	3前	2				○			1	2	3			オムニバス
	歯科保健指導論	口腔介護概論	2後	1			○				1					
		顎口腔機能リハビリテーション演習	3前	2				○		1	1	2	3			オムニバス
		在宅歯科衛生管理論	3前	1			○					2				オムニバス
		口腔保健指導論	2後	2			○				1	2	1			オムニバス
		食生活指導	3前	2			○				1	2	3			兼1
		地域口腔保健学演習	3前	2				○			2	2	3			オムニバス
		歯科医療管理学	4前	1			○			1						兼1
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ（総論）	2前	1			○					1				
		歯科診療補助論Ⅱ（各論）	2後	2			○					1				
		歯科診療補助演習Ⅰ（基礎技術）	2後	2				○		2	1	2	2			オムニバス
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	3前	2				○		2	2	2	3			オムニバス
		歯科生体材料学	2後	2				○		1						
		歯科医療安全学	2前	1			○			1	1	1				オムニバス
	臨床実習	口腔保健臨床実習Ⅰ（早期臨床実習）	1後	1					○	3	2	2	3			
		口腔保健臨床実習Ⅱ（基礎実習）	2後	2					○	2	2	2	3			
		口腔保健臨床実習Ⅲ（歯科診療所）	3後	8					○	2	2	2	3			
		口腔保健臨床実習Ⅳ（病院）	3後	6					○	2	2	2	3			
		地域支援臨床実習	3後	1					○		1	2	3			
		発達支援臨床実習Ⅰ（障害（児）者）	4前	1					○		1	2	3			
		発達支援臨床実習Ⅱ（高齢者）	4前	1					○		1	2	3			
小計（35科目）				68			—		3	3	2	3		兼5		
選択必修分野	臨床心理学	2後	2			○									兼1	
	障害児心理学	2前	2			○									兼1	
	感覚・知覚の行動心理	2前	2			○									兼1	
	こころのしくみの理解	1前	2			○									兼1	
	産業カウンセリング論Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	社会福祉原論Ⅰ	1前	2			○									兼1	
	社会福祉原論Ⅱ	1後	2			○									兼1	
	看護学概論	1前	2			○									兼4	
	介護概論	2前	2			○									兼1	
	生活支援論	1後	2			○					1				兼10	
	生活支援論演習	4前	2				○				1				兼9	
	発育発達論	2後	2			○									兼1	
	地域福祉論Ⅰ	4前	2			○									兼1	
	地域福祉論Ⅱ	4後	2			○									兼1	
	社会保障論Ⅰ	4前	2			○									兼1	
	社会保障論Ⅱ	4後	2			○									兼1	
	老人福祉論Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	障害者福祉論Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	児童福祉論Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	公的扶助論	2前	2			○									兼2	
	介護保険論	3前	2			○									兼1	
	福祉法学Ⅱ	2後	2			○									兼2	
	国際保健活動論	4前	2			○									兼1	
	社会調査法	4前	2			○									兼2	
	卒業研究	4前	2			○				1					兼2	
	卒業研究論文	4通	4			○				4	3	2	2			オムニバス
	コミュニティ口腔保健実習指導	4前	2			○				1		1	1		兼3	
	コミュニティ口腔保健実習	4後	1						○	1		1			兼1	
	ライフステージ口腔保健実習	4前	1						○		1		2			
小計（29科目）				6	52			—	4	3	2	2		兼33		

教育課程等の概要（口腔保健学科）

（看護福祉学部 口腔保健学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由選択科目	体力測定・評価	2後			2	○	○								兼1
	運動処方論	3後			2	○	○								兼1
	エアロビッグ演習	4前			2		○								兼1
	エアロビッグ実習	4前			1			○							兼1
	スポーツ心理学	1後			2	○									兼1
	水泳（アクアビクスを含む）	1前			1			○							兼1
	陸上競技（ジョギング・ウォーキングを含む）	1後			1			○							兼1
体操（器械体操を含む）	2前			1			○							兼1	
小計（8科目）				12		—								兼5	
合計（142科目）		—	117	142	12		—		4	3	2	3		兼96	
学位又は称号		学士（口腔保健学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業要件 「人間と生活の理解」と「ことばと文化」の分野の中から、必修8単位、選択4単位以上。「科学的思考の基盤」の分野の中から、必修8単位。「人体の構造と機能」の分野の中から、必修8単位。「歯・口腔の構造と機能」の分野の中から、必修5単位。「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」の分野の中から、必修8単位。「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の分野の中から、必修6単位、選択2単位。「専門分野」必修68単位。「選択必修分野」必修6単位、選択2単位。「合計取得単位数」必修117単位、選択科目の中から、8単位以上、計125単位						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共 通 科 目	高齢者ケアサービス論	少子高齢社会における高齢者ケアサービスはどのように展開されているのかについて、介護保険法・老人福祉法等を根拠とするケアサービス及び地方自治体のフォーマルサポートの現状について論じ、少子高齢諸外国の例と比較する。また、高齢者ケアサービスチームにおいて看護職のケアコーディネートのあり方や、ケアの対象である高齢者の視点を重視する看護やケアサービスシステムについて教授する。	
	ヘルスケアシステム論	国民医療費の高騰と情報化推進などを背景として、医療・保健・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、サービスの質保証と効率的提供という2つの視点の重要性が再認識されている。ヘルスケアは、医療関係法制や医療(保険)制度などの社会的枠組み(システム)の中で生産、消費されるサービスであり、システムが個々のサービス提供過程に介入し管理する度合いは益々高まるものと考えられる。本講では、ヘルスケアシステムの管理的諸側面について、具体的課題提示とその問題理解のための特徴的論点を先行研究の紹介を踏まえて講義する。また、質保証の視点から重要な各種アウトカム指標とそれらに寄与すると考えられる総合的質管理(TQM:Total Quality Management)について紹介し、当該領域における質に関する具体的問題解決能力並びに実践的研究能力の涵養を図る。	
	医療統計学	看護・福祉学分野等の疫学調査研究や実務作業を遂行する上で、得られるデータを統計学的手法により処置する場合がある。また、関連分野の論文などを検索するとき、統計学的解釈が求められる。本講では、疫学調査研究や医療実務作業等の遂行、そして研究関連論文の統計学的解釈に必要な統計学的基礎知識の習得並びに運用能力の涵養を図る。	
	応用倫理学	人間の健康と不健康、正常と非正常、見守りと介入などにおいては、その境界において発生する倫理的判断に対する鋭敏な感覚が必要である。説明と納得に基づく基本的な合意形成への不断の努力が求められる。健康支援科学で議論されるべき哲学・倫理的問題は今日、応用倫理学(applied ethics)で扱われるべき事柄であるが、本講では、その接点を「作為と不作為」(commission and omission)というキーワードを基に論を進めたい。どの時点でどのように「介入」すべきなのか、それとも「放置」の形態を取りつつ、しかも、当事者の「気づき」を待ちつつ「見守る」べきなのか——「葉害エイズ」や「ハンセン病問題」の実例をも参照しながら、研究の入口として、倫理に関わる問題発見と展開・解決のセンスを形成して行くように教授する。	
	健康医科学	国際的な幅広い視点に立ち、こころと技量を持った有能な保健・医療・福祉の専門的職業人を育成する上で医科学はその根幹をなすものである。人体の構造と機能と疾病論に続いて、各種疾病、特に生活習慣病、がん、脳血管障害、認知症、運動器疾患などの疾患を対象に疾病の成り立ち(病態生理学)、症候論、予防法と治療学を教授する。併せて神経障害を中心とした難病医療、高齢者医療や終末医療の特質を論じ、科学的根拠に基づいた保健・医療・福祉活動を実践できるように教授する。	
	心身医学論	こころとからだの相関を理解する。現代というストレス社会への適応とサポートを、統合医療の視点から教授する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共 通 科 目	健康支援科学通論	<p>ヘルスプロモーションの理念を基に、医療的アプローチ(医学、理学療法学、鍼灸学、口腔保健学、看護学)、社会科学的アプローチ(社会福祉学、心理学、統計学等)の両側面を基盤として、健康支援実践モデルの構築について講義し、人の健康を支援するために必要な多面的な知識・技術についての思考力を磨くことを狙いとしている。具体的には、内閣官房長官主宰の新健康フロンティア戦略(2007)における9つの健康対策(介護予防力、女性の健康力、がん克服力、メタボリックシンドローム克服力、こころの健康力、歯の健康力、食の選択力、スポーツ力、子供の健康力)の中から主たるキーワードを選択し、当該分野に精通した教員がオムニバス方式で講義を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (18 佐藤 林正 3回)</p> <p>日本におけるヘルスプロモーション、海外におけるヘルスプロモーション、介護予防と健康支援について教授する。 (1 加藤 浩 2回)</p> <p>理学療法学における健康支援、介護予防と健康支援について教授する。 (6 中井 さち子 2回)</p> <p>鍼灸学における健康支援、メタボリックシンドロームと健康支援について教授する。 (5 徳永 淳也 1回)</p> <p>口腔保健学における健康支援について教授する。 (15 生野 繁子 1回)</p> <p>介護予防と健康支援について教授する。 (17 福本 久美子 1回)</p> <p>働く女性の健康支援について教授する。 (3 川俣 幹雄 1回)</p> <p>がん予防と健康支援について教授する (13 内田 匠治 1回)</p> <p>こころの健康支援について教授する。 (21 岩井 眞弓 1回)</p> <p>こころの健康支援について教授する。 (2 金子 憲章 1回)</p> <p>ウ蝕・歯周病予防の健康支援について教授する。 (8 村上 繁樹 1回)</p> <p>摂食・嚥下リハビリテーションの健康支援について教授する。</p>	オムニバス 方式
	ヘルスプロモーション論	<p>健康は、種々の要因によってその保持や増進、阻害などが規定される。近年においては、生活習慣病や精神障害が著しく増加しているが、これらの健康阻害のリスクファクターもかなり明らかになりつつあり、包括的予防の視点からヘルスプロモーション・アプローチの重要性が高まっている。そこで、本講では、以下の点を中心に教授する。①健康の決定要素を含め主要なヘルスプロモーション概念について理解の深化。②効果的なヘルスプロモーション・アプローチの計画・実践・評価のスキルの修得。③地域でのヘルスプロモーション実践における住民参加を含む協働的取り組み。④健康支援科学にかかわる健康問題へのヘルスプロモーション概念の応用。⑤ヘルスプロモーション実践と支援的ネットワーク形成とそのあり方。</p>	
研 究 基 盤 科 目	精神保健アセスメント論	<p>アセスメントは患者・クライアントの可能性を探るために行われる。その可能性を探るためには、どのようにアセスメントにおいて能動的機能と受動的機能を相補的にかみ合わせるかが重要となる。本講では、アセスメントの領域・場面及び様々な心理療法などを導入する時のアセスメントについて検討していく。</p>	
	口腔疾患病態論	<p>口腔疾患は齶蝕と歯周病が2大疾患であるが、それら以外にも口腔に発症する疾患は多く存在し、硬組織疾患、口腔粘膜疾患、顎骨及び顎骨内に原発する疾患があり、さらに他の臓器に原発した疾患の症状が口腔内に出現することもある。これらの口腔疾患の病態を総合的に理解できるよう教授する。また、特に歯周病については、歯周病が全身に及ぼす影響を分子生物学的に教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
研 究 基 盤 科 目	口腔疾患予防基礎論	口腔という特殊な環境を学び、う蝕及び歯周病を中心に、不正咬合、口臭症、口腔乾燥症など主な口腔疾患の病因・病態及び予防法について体系的に理解し、これらの口腔疾患と全身疾患との関連について理解を深める。以上を通して、口腔保健を通じた支援により、健康の向上に寄与できる能力を養う。	
	表面筋電図計測・解析論	健康支援科学に関連する定量的評価と科学的介入方法の確立を目指して、まず、身体計測の意義について学ぶ必要がある。そこで生体現象を計測する真の意味をより深く理解するため、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について講義する。その意義を踏まえた上で、「表面筋電図」の計測原理について講義を展開する。具体的には、振幅情報に注目した①積分筋電図解析や、時間情報に注目した②筋電図反応時間、そして、周波数情報に注目した③周波数パワースペクトル解析について講義を行う。	
	生体運動・動作解析学	健康支援科学に関連する定量的評価と科学的介入方法の確立を目指して、まず、身体計測の意義について学ぶ必要がある。そこで生体現象を計測する真の意味をより深く理解するため、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について講義する。その意義を踏まえた上で、「三次元動作解析・床反力」の計測原理について講義を展開する。具体的には、運動力学的評価(床反力、関節モーメント等)や運動学的評価(関節角度、歩行速度、時間等)についての講義を行う。	
	生体酸素搬送システム 評価学	この授業では、Wassermanの酸素搬送系システムをモデルとして、生体におけるエネルギー代謝調節のメカニズムとその障害像について学ぶ。運動遂行は、エネルギー代謝の視点からとらえると、末梢骨格筋への酸素と栄養素の運搬、及び二酸化炭素の排出というプロセスが不可欠である。生体においてこれらの過程が円滑に遂行されるためには、肺、心臓、骨格筋という3つの器官の協調した活動が必要となる。これらの正常な生理学的機能のあり方と、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、骨格筋障害等における各種障害像について学ぶ。	
	呼吸調節機能評価学	ヘルスプロモーションにおいて重要な要素である身体活動を理解する上で、生体反応に基づく呼吸調節や運動生理学的観点から呼吸循環応答を捉えることは不可欠である。また、呼吸障害を有する者が増加する現在の医療情勢において、呼吸障害の特性を知り、呼吸障害を有する者への健康支援へとつなげることは、医療者のみならず、健康科学に携わる者にとっても今後大きな課題となる。本講では、呼吸調節のメカニズムについて理解を深めつつ、呼吸機能の評価とその意義、運動生理を踏まえた呼吸循環応答、呼吸障害の特性と運動制限のメカニズムについて理解することをねらいとしている。そのうえで「肺機能、呼気ガス分析」の計測原理について講義を展開する。	
	計量解析研究論	人文・社会科学を始め、医療・福祉・保健領域といった様々な分野においても多変量データを用いた研究は一般的になってきている。複数個の変数によって特徴づけられた多変量データの解析法はその分析目的に応じて様々な手法が開発されているが、本講では代表的なものを取り上げ、各手法の原理の理解と分析結果の解釈につながる応用的知識の習得を目標として教授する。	
	脳形態機能解析学	ヒトの心は、大脳皮質を中心とした神経細胞活動の総合的産物と言える。即ち、精神の座を脳に求めることができ、脳の構造や働きを知ることはヒトを理解することにつながる。医療系大学院生として、様々な障害・疾患を抱えた患者と接していく上での「心のより深い理解、より良い治療、より効果的な機能回復や介護」の一助として役立てて欲しい。そのためにも、学部教育の際は触れなかった詳細な知識と高度な理解力が要求される講義を行なう。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
研 究 基 盤 科 目	東洋医学基礎理論	<p>鍼灸学の根幹を成す東洋医学の基礎理論について教授する。東洋医学の起源と歴史及び東洋医学独特の人体構造、機能の概念や疾病観、病因論についても教授する。また、相補・代替医療の各種治療法についても解説し、統合医療のひとつとして、鍼灸がどのように貢献できるかについても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 内田 匠治 6回)</p> <p>東洋医学の起源と特徴、疾病観、病因論及び本邦における近代鍼灸医学の発展について教授する。</p> <p>(28 北出 利勝 6回)</p> <p>東洋医学の診断体系及び気の医学の応用として鍼通電療法やSSP療法、0リングテストなどの近年日本で開発された療法について教授する。</p> <p>(29 長尾 和治 1回)</p> <p>相補・代替医療の歴史及び各種の治療法について概説し、将来、統合医療の中で鍼灸学がどのように貢献できるかについても教授する。</p> <p>(30 橋口 玲子 1回)</p> <p>相補・代替医療の実践例として、病院におけるアロマセラピーについて教授する。</p> <p>(6 中井 さち子 1回)</p> <p>相補・代替医療の実践例として、食育・食養生について教授する。</p>	オムニバス 方式
	基礎病態生理学	<p>鍼灸臨床において特に重要な疾患及び鍼灸治療の効果が期待される疾患を対象とする。解剖生理学及び病理学的な理解を踏まえたうえで、各疾患の成り立ちと臨床像との関係や治療方針の考え方について、特に現代医学的な視点からの理解を深める。この過程を通して、統合医療の一分野としての役割を果たし、科学的根拠に基づいた鍼灸医療を実践する基礎を学ぶ。</p>	
臨 床 応 用 科 目	家族発達援助論	<p>人間にとって福祉追求の第一次集団と期待されている家族が、時には反福祉的環境になることもある。児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、中高年の自殺等の事例がこのことを実証している。本講では、家族の発達課題の認識とその遂行への援助について、様々な事例の分析を通して生活・健康の維持、予防的援助、困難時の援助的介入のあり方、及び家族援助の手法について教授する。</p>	
	発達障害臨床論	<p>発達支援教育が始まり、発達障害を持つ子どもへの対応が求められる中、適切な支援が困難な状況にある。これらを支援する上で必要な生物学的なレベルからの認知特性、行動特性を理解し、これを基盤として問題行動を含めた日常生活の困難さを理解した上で必要な支援の考え方と組み立て方について教授する。また、子どもへの支援だけでなく、家族支援や地域社会との連携を含めた障害発達支援のあり方を考える。</p>	
	応用健康教育論	<p>健康に対する期待が高まっている現代社会において、一方では、健康の科学性や哲学性が欠如している様相もみられている。本講では、健康教育や健康観の歴史やその変遷にも言及して、健康の科学性や哲学性を高めることができるように疫学的健康観を基盤とした健康教育のあるべき姿について教授する。</p>	
	教育精神保健論	<p>今日の子どものに関する問題（適応障害や学業不振、神経症、不登校やいじめ、暴力など）及び子どもを取り巻く問題（貧困、教育格差など）について履修者とともに検討していく。その中で教育に内在する予防的機能と治癒的機能を検討し、学校教育と関わる子どもの精神保健課題への対応や支援のあり方の本質を考察する。</p>	
	高齢者精神保健論	<p>老年期は心身の機能の低下、退職による社会的地位や収入の減少、配偶者や親しい友人などとの離別・死別等、複合喪失のステージにある。これら高齢者のライフ・イベントやそのステージに応じた精神保健問題の予防、家庭・地域における精神的健康づくりについて教授する。さらに老年期うつ病や認知症を中心に、高齢者自身へのメンタルケアはもとより、介護家族への支援、地域ケアや地域計画、予防や健康の保持増進などの社会的支援方法について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨 床 応 用 科 目	障害児発達援助論	知的障害、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、自閉症、コミュニケーション障害などの発達障害への理解を深めるとともに、発達障害児への援助について教授する。特に、障害をマイナスの状態やネガティブ状態として捉えず、障害という状態からスタートという観点を中心に、障害のある個人を対象とした援助から、家庭や学校・地域を含む包括的な援助、社会的参加の援助、生涯にわたる援助などについて教授する。	
	口腔機能リハビリテーション論	顎口腔の基礎知識を深く理解し、エイジングと歯科補綴との関連について学ぶ。さらに、食べる機能を回復する口腔ケアにも造詣を深め、高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションに対応できる能力を習得する。	
	口腔機能発達支援論	ライフステージ毎 (障害児・者、要介護高齢者も含む) に応じた口腔保健の視点からできる支援とは何かについて考える。また、ライフステージ毎の「対象児・者を知る、理解する」ために発達検査、知的検査、社会生活能力検査など各種検査方法を学んだうえで対象児・者の口腔保健行動等を変容させるための行動療法等について理解を深め、口の健康を通して生活を支援するための口腔保健学の展開について考える。	
	介護予防フロンティア戦略論	厚生労働省は主たる介護予防戦略として、高齢者の生活機能の低下を予防するとともに、要介護の主たる原因となる「骨折」、「脳卒中」、「認知症」の効果的な介護予防策を推進することとしている。介護予防を実践するためには3つの視点からのアプローチが重要である。即ち、一次 (生活機能の維持・向上)、二次 (生活機能の低下・早期発見・対応)、三次 (要介護状態の改善・重度化の予防) の視点である。当該授業では、筋骨格系を主とした下肢運動器疾患に焦点を当て、介護予防に必要な「運動指導」、「高齢者の筋力増強」、「転倒骨折の予防」、「日常生活関連動作訓練」を如何に推進するかについて、上記の3つの視点から高齢者の加齢に伴う体力及び生理機能、運動のトレーナビリティ等について文献レビューを行う。そして、今後のより実践的で効果的な介護予防のあり方について議論する。	
	疾病予防支援論	疾病予防のための健康支援のあり方について学ぶ。健康の維持・増進にとって、疾病そのものに罹患しない (1次予防) ことが理想的であることに異論はないであろう。脳血管障害や虚血性心疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍などのいわゆる生活習慣病は、ライフ・スタイルを見直すことによって、その一部は予防することが可能である。WHOが提唱する非感染性疾患の最も大きなリスクファクターは、喫煙と高血圧であるといわれている。この授業では疾病予防における喫煙規制や日常生活習慣の行動変容、及び運動の意義と役割などについて学ぶ。	
	内部障害フロンティア戦略論	呼吸障害に伴う身体活動低下は、身体機能への廃用性変化を招来し、2次的障害へとつながるリスクとなり得る。そればかりか生活の質に悪影響を及ぼす1つの要因ともなり得る。そのため呼吸障害における身体活動低下の要因を追求し、適切な回復支援、生活活動支援、予防支援を行うことが不可欠である。本講では、リハビリテーションの観点から回復支援、生活活動支援、予防支援を軸に呼吸障害を有する者への支援方法について理解を深め、そのあり方について議論する。	
	生活機能判断学	近年、国民の「医療の質」に対する関心は高まり、根拠に基づく効果的医療 (EBM) の提供が叫ばれるようになってきた。根拠に基づいた理学療法 (EBPT) とは、①臨床研究による科学的根拠、②臨床推論能力、③施設の設備、④患者の意向等を総合し、最適な臨床判断を行うことによって、質の高い理学療法を実践するための一連の行動様式である。そこで、当該授業では主として実際に臨床でよく対峙する症例を題材に臨床推論能力の向上を目指した講義を行う。	
	身体機能制御論	鍼灸の科学的研究より明らかになりつつある鍼灸の治効メカニズムについて教授する。これまでに明らかになっている鍼灸の治効メカニズムの概要及びこれから明らかにしなければならない課題について整理し、鍼灸研究の最前線についても教授する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床応用科目	和漢療法応用学	<p>漢方医学の歴史と基礎理論特に鍼灸と対をなす湯液について教授する。特に漢方薬の特徴、臨床の場で用いられている方剤や薬膳の実際についても概説する。 (オムニバス方式/全15回) (29 長尾 和治 8回)</p> <p>湯液の歴史と基礎理論について概説し、漢方薬の特徴、臨床の場で用いられている方剤について、鍼灸の処方と比較しつつ教授する。 (28 北出 利勝 4回)</p> <p>薬種商制度の概要について教授しその実践例についても紹介する。世界 (アジア及び欧米) の民間伝承薬としてのハーブについて紹介と、その現代的な応用例について教授する。 (13 内田 匠治 3回)</p> <p>日本の民間伝承生薬の歴史と特徴、実践例について教授する。</p>	オムニバス方式
研究応用科目	応用口腔機能支援科学特論	<p>口腔保健学は、現在行われている齲蝕、歯周病予防法だけに止まらず、新しく開発された治療法、器具・機器等への対応も必要となってくる。また、多くの口腔内検査法も報告されており、これらの検査方法、その意義について理解することも重要である。そこで、これらについての論文・出版物を用いて教授する。</p>	
	応用口腔機能支援科学演習	<p>口腔保健学における研究の意義を理解させ、今までに学んできた口腔保健学の授業より興味ある論文を検索させ、その内容が理解できるように指導する。さらに、検索した論文内容における実験方法、結果、考察等の問題点を模索させる。数編の論文を理解させることで、一連の論文記述の方法、展開を習得させる。</p>	
	社会口腔機能支援科学特論	<p>医療福祉サービスでは、提供者側のどのような要因が、患者や利用者側のどのような結果(アウトカム)の改善につながるのかについての客観的評価は必須であり、測定(評価)手法を確立できない事象については有効な改善策を見つけることは出来ない。このような観点から、口腔保健学を中心として、看護、福祉などの多領域にわたり基礎的用語や測定手法を精選された論文・書籍を用いて講義しながら、文献の批判的吟味を通じて、研究テーマの具体化及び本領域における対象の客観的評価手法の習得を目的とする。</p>	
	社会口腔機能支援科学演習	<p>口腔保健学分野における対象者の社会的な関係性理解に基づくQOLや精神的健康度等の各種評価領域についての豊富な研究論文を精読しながら、障がい(児)者、高齢者等の様々な立場の人々に対する調査手法や評価方法等について理解を深める。それらを踏まえた上で、各問題意識に対応した研究概念の確立と信頼性、妥当性に配慮したアウトカム指標の詳細な検討を行い、特論で習得した基礎的分析知識等を基に文献の批判的吟味を行いつつ、最新の研究成果を基に研究テーマの醸成を図る。</p>	
	発達口腔機能支援科学特論	<p>発達口腔保健学では、顎口腔の基礎知識を習得し、超高齢社会を迎え、ますます重要となる咬合に関する知識を深める。さらに、不正咬合の成因を学び、その改善について理解する。口腔治療リハビリテーションを学び、摂食嚥下支援について造詣を深める。そのため、これらについての論文・出版物を用いて教授する。</p>	
	発達口腔機能支援科学演習	<p>発達口腔保健学での研究とは何かを理解させ、学習した発達口腔保健学の授業の中で興味あるテーマについて検討する。それに関する論文を検索し、抄録を作成させて内容が把握できるように指導する。この過程で、論文の実験方法、結果、考察等の書き方を学習させる。代表的な論文を理解することにより、研究論文の記述方法や展開の仕方等を習得させ、考察の重要性について指導する。</p>	
	身体運動機能支援科学特論	<p>今の運動器理学療法に必要なものは従来の量的な筋力トレーニングに加え、別の質的な筋力向上を図るトレーニングプログラムを作成することであり、その筋の質的評価法の確立である。しかし、現状ではADLに直結した動的な質的能力を客観的に評価する方法が極めて少ない。そこで、当該科目では筋の質的能力(質的機能)とは一体、何なのか臨床的視点から筋機能の特徴について論ずる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
研 究 応 用 科 目	身体運動機能支援科学 演習	運動器疾患の機能障害に関する基本的な研究方法について理解を深めるため、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を演習形式で展開する。そして、模擬データの結果を統合・解釈し、対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学習する。当該科目において研究テーマに関連する臨床実践能力を修得させる。	
	呼吸・循環機能支援科学 特論	内部障害は、「外から見えない障害」の特性や同じ疾患でも多様な病態を示すことから、病態・障害を客観的に捉え、理学療法を施行することが求められる。特に全身持久力をはじめとする内部障害の運動能力を捉えることは重要であり、活動性向上に直結する。当該科目では、主に呼吸障害を対象とし、その特性を踏まえながら、運動制限の要因と機序、運動能力の捉え方、さらには活動向上に至るまでの過程とそのアプローチポイントについて論ずる。	
	呼吸・循環機能支援科学 演習	当該科目では、内部障害の運動制限や運動療法の効果について理解を深めつつ、その運動指標の解析と捉え方をシミュレーションデータの解析を通して学ぶ。また臨床における内部障害への課題やトピックを踏まえ、研究を視野に入れた定量的指標の選択や測定方法など、各自の研究テーマに沿った研究プロトコル確立に必要な知識、技術を修得する。	
	身体機能予防支援科学 特論	東洋医学、ことに鍼灸治療の基本的な考え方に未病の概念がある。疾病予防と健康増進を目的とし、鍼灸治療により未病をいかに実践・応用していけるか、予防医学的視点より見た鍼灸研究について教授する。	
	身体機能予防支援科学 演習	修士論文の研究テーマに関連する学術論文、文献を中心に、主としてヒトを対象とする予防医学、鍼灸臨床の研究論文を題材として研究目的、方法、結果、考察などについて指導する。	
	身体機能応用支援科学 特論	現代西洋医学の各分野において鍼灸治療が有効なもの、また対象となる可能性がある疾患について、診断・検査法・治療法そして鍼灸の治療効果判定について、最新の現代医学的及び鍼灸医学的知見について教授する。また、鍼灸治療の適否、限界についても教授する。 (オムニバス方式/全30回) (6 中井 さち子15回) 主に内科系疾患(循環器、呼吸器、栄養代謝性疾患など)を対象として教授する。 (13 内田 匠治15回) 主に外科系疾患(消化器、泌尿器、運動器、脳血管疾患後遺症など)を対象として教授する。	オムニバス 方式
	身体機能応用支援科学 演習	修士論文の研究テーマに関する学術論文、文献を中心に、ヒトを対象とする鍼灸臨床の研究論文を題材として研究目的、方法、結果考察などについて指導する。 (オムニバス方式/全30回) (6 中井さち子15回) 主に内科系疾患(循環器、呼吸器、栄養代謝性疾患など)を対象として指導する。 (13 内田匠治15回) 主に外科系疾患(消化器、泌尿器、運動器、脳血管疾患後遺症など)を対象として指導する。	オムニバス 方式
	身体機能病態生理学特論	鍼灸臨床において特に重要な疾患及び鍼灸治療の効果が期待される疾患を対象とし、その疾患に関する現代医学的な診断・検査、治療に関する具体的な内容を学ぶ。さらに、現代医学的な視点から見た鍼灸治療の効果判定の考え方についての理解を深める。これらの理解を通して、現代医学的アプローチと鍼灸医学的アプローチの役割分担と連携の在り方についても考察する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護福祉学研究科 健康支援科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
研 究 応 用 科 目	身体機能病態生理学演習	大学院生の研究テーマに関連した鍼灸医学及び現代医学的分野の基礎的・臨床的研究の原著論文を抄読し、鍼灸研究の発展と経緯を学ぶとともに、その最新情報を得る。また、抄読論文の内容を正しく理解し、その課題について考察する。この過程を通して、科学的研究の進め方や現代医学的研究の手法を理解し、論理的な考え方の基礎的能力を習得する。	
	鍼灸臨床特別演習	鍼灸臨床における高度な臨床能力を養うために、附属鍼灸臨床センターで実際に患者へ治療を行い、その効果を評価し臨床実践能力を高める。座学だけの理解では身につけることのできない臨床技術を実践演習することにより、より高度の鍼灸治療技術を養成する。 (オムニバス方式/全30回) (6 中井 さち子 10回) 主に内科系疾患（循環器、呼吸器、栄養代謝性疾患など）を対象として症例検討の指導を行う (11 塚本 紀之 10回) 主に健康・予防的な治療（生活習慣病予防対策、疲労、ストレスなど）を対象として症例検討の指導を行う。 (13 内田 匠治 10回) 主に外科系疾患（消化器、泌尿器、運動器、脳血管疾患後遺症など）を対象として症例検討の指導を行う。	オムニバス 方式
総 合	健康支援科学研究	健康支援科学専攻に関する研究活動の総括として、口腔機能支援科学分野と身体機能支援科学分野に関する研究を位置づけ、修士論文の作成に係る研究指導を行う。 (5 徳永 淳也) 特論及び演習で得た基礎知識並びに固有の研究領域の問題意識に配慮しながら、社会調査法や疫学的アプローチを念頭に置いて、研究テーマを決定する。特に、口腔保健学における社会的事象・側面に関する食行動や言語コミュニケーションについての研究課題について、調査デザイン作成、調査実施、データ解析、論文執筆、等の各過程における考え方に習熟をはかりつつ、研究論文作成指導を行う。 (2 金子 憲章) 特論及び演習で教授された内容を基盤として、口腔保健学における研究テーマを選択し、テーマに即した論文を検索させ、実験方法を指導しながら、研究の方針を指導する。特に、口腔機能向上・低下に対するブラク細菌の種類・口臭の変化を取り上げ、簡易嫌気培養装置、口臭測定装置を用いて口腔環境と口腔機能との関連についての課題の研究指導を行う。 (8 村上 繁樹) 特論及び演習で学習したことを踏まえて、発達口腔保健学に関する研究テーマを選択する。それに参考となる論文を検索させて検討し、綿密な研究計画を立案する。特に、小型汎用表示器及び小型圧力センサーを用いた摂食・嚥下リハビリテーションの健康支援に関する課題に関する研究指導を行う。 (1 加藤 浩) 動作解析装置や床反力、あるいは表面筋電図を用いた身体機能支援に関する研究指導を行う。 (9 大池 貴行) ・呼気ガス分析装置を用いた心肺運動負荷試験やフィールドテスト、スパイロメータによる呼吸機能支援に関する研究指導を行う。 ・重力加速度計を用いた循環器機能支援に関する研究指導を行う。 (6 中井 さち子) 生化学的な分析法を用いて、生活習慣病（糖尿病、アトピー性皮膚炎など）に対する鍼灸治療の効果に関する研究指導を行う。 (4 齋田 和孝) 鍼灸による病態生理学的反応について、免疫学的視点より研究指導を行う。 (11 塚本 紀之) 免疫生物化学的研究手法を用いて、鍼灸刺激による免疫調節の予防効果の研究指導を行う。	